

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 2年 2月 5日

事業所名 障害児学童保育所あみ 保護者等数(児童数) 18 回収数 15 割合 83 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	5	10			外出をたくさんさせてもらって敷地の狭さは補われている様子	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	8	7			臨時のスタッフさんとか入り替りして対応している様子	臨時スタッフはいない。夏休みの利用者が多いときに学生ボランティアさんに保育の手伝いをもらうことはある
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	7	5	3		手すり、仕切り、鍵を利用してよく対応されている	スロープは設置しており、現在は避難訓練時等に使用している
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	12	1		2		
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	11	4		1		
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	4	3	4	必要性は感じていない	他の児童クラブとの関わりを設定はしていないが、野外活動を多く取り入れる中で自然に他の子どもと関わる機会がある
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	15					
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	14	1				
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	12	1	1	1		
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	9	5	1			
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10	2		3		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	11	2		2		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	13	1		1		
14 個人情報に十分注意しているか	15						
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	6	5	1	3		ご意見はいただいていないが、今後周知して行く予定である
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9	2		4		定期的に避難訓練は実施している。今後、避難訓練を実施する際は、保護者の方にも見て頂き、終了後に意見をもらうことも取り入れていく方向である
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	11	3		1	日々の予定が具体的に計画されていたら、見通しが持ちやすく活動にも参加しやすいです	現在は月案を作成し配布している
	18 事業所の支援に満足しているか	12	2	1			

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 2月 5日

事業所名 障害児学童保育所 あみ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		<input type="radio"/>	二階のプレイルームだけでは狭いため、一階の部屋も活用している	活動レベルに分けて実践している
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		<input type="radio"/>	バリアフリーを必要とする利用者はいない	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		安心安全をベースに、日々日案を作成し職員配置の見える化を実行している	利用者が遅くまで残っているため、その日のうちに今日の振り返りができない状況である
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		<input type="radio"/>		評価表の活用はあるが、改善に繋がっていないため、スタッフミーティングで業務改善について話し合いを持つ様にする
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>			
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている		<input type="radio"/>	その日のリーダーが立案し、日々の会議で役割を確認したり、修正ポイントがないかも確認している	各々の職員が会議などがあり、チームで立案するのが難しい状況である
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>		日案は職員が交代で立案し、プログラムが固定しないように工夫している	日々の14時からの会議で職員一人一人の役割を確認している
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	<input type="radio"/>			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		<input type="radio"/>	翌日に前日の振り返りをしている	子どもが遅くまで残っていることもあり、当日振り返りをする時間がない
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>			
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている		<input type="radio"/>	自立訓練の一つとして、自分で出来る事は自分でするように声かけしている		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		<input type="radio"/>	毎週週報をコピーさせてもらい、時間を確認している。また保護者から学校にきてもらうこともある伝えてもらう	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		<input type="radio"/>		医療的ケアの利用者はいない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	<input type="radio"/>			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		<input type="radio"/>		今後、情報提供を積極的に行うよう取り組んでいく
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		<input type="radio"/>	法人内の発達支援員に相談し、助言をもとめることもある	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		<input type="radio"/>	野外活動を通して、障がいのない子どもたちと接する機会をもつようしている	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	<input type="radio"/>			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	<input type="radio"/>			
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	<input type="radio"/>			
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	<input type="radio"/>			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<input type="radio"/>			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	<input type="radio"/>			
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	<input type="radio"/>			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	<input type="radio"/>			
	35	個人情報に十分注意している	<input type="radio"/>			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	<input type="radio"/>			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		<input type="radio"/>	事業所の行事ではないが、法人の秋祭りには地域の方も多数参加している	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		マニュアルはあるが、周知はできていないため、スタッフミーティング等を活用し周知する機会をつくっていく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○	現在は身体拘束を行なう利用者はいない	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	アレルギーのある利用者はいない	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		ヒヤリハットや事故報告書は記入し、所長、主任は確認している。今後は回覧し全職員で共有していく